

5月のおはなし

「ネルソンの橋」

こ

の都会には何十万何百万の人生がある。地下鉄ではそのうちの何十何百の人生が何十何百秒だけすれ違う。かなり劇的なことだと言っていると思う。事実、その日、僕が茅場町駅ですれ違った人物は使い古した洗面器を持っていた。

日曜日の朝に洗面器を持って地下鉄に乗る人生とは？

芳男(仮名)は驚いた。それも、サンビンセント沖で六隻以上の

1

僚艦と集中放火を浴びせて破壊した筈の敵将ネルソンの船から逆に体当たりを食らわされ、拿捕されたサンニコラス号くらいの驚きだ。何しろ風呂場にカンガルーがいたのだ。

2

夜勤明け、眠い目を擦りながら、シャワーの蛇口を捻ったとき、空のバススタブから何かのつそり起き上がった。それが次郎(カンガル、仮名)だ。芳男は賢明にも悲鳴をあげるの

を思い止まった。次郎の眼は怪しく光り、珍入者に隙あらば得意のアップパーカットを見舞おうと身構えていたのだ。

どちらが珍入者かはともかく、芳男は後ろ手に武器になるものがないか探った。幸いにも右手が洗面器に触れた。そして！

バ

スタブでのびている次郎を横目に、芳男はオーストラリア駐日武官の追跡から逃れるため、物証の凶器を持って家を出た。



ソンの攻撃を受けたサンホセ号  
くらいだ。ネルソンは拿捕した  
サンニコラス号を「橋」にして  
サンホセ号に白兵攻撃を行った  
のだ。

**ス**

ペイン兵は、雄叫びを上  
げて斬込隊の先頭に立つ  
ネルソン艦長を見て、いかれた  
奴だ、と思い、義助も同意見だっ  
た。何しろ義助の貴重な日曜の  
朝のまどろみは、クラブ『さや  
か』のチーママからのいかれた  
電話に粉碎されたのだ。

洗面器に水入れて持ってきて

いまひとつ、もとい。本日の  
彼の人生。

義助（仮名）は呆れていた。  
それもサンビンセント沖でネル

頂戴”

義助は何も言わず電話を切っ  
た。どうせ酔っているのだ。す  
ぐにまた電話が鳴った。

”言っとくけどアタシ酔ってな  
いわよ”

「なんで洗面器に水なんですか」  
”顔洗うから”

**切**

りますよ」

”ま、待つて。最後ま  
で聞きなさいよ。さつき店はね  
て帰って来て、クレンジングで  
お化粧落として蛇口ひねった

とここで気が付いたのよ。今日こ

のマンション貯水槽清掃で断水  
だつて。案の定、赤茶けた水が  
ちよつとでるだけじゃない。な  
に？それで洗えつて？アンタ中  
世の船旅じゃないんだから。そ



うそう塩素消毒のない昔、船旅の飲み水ってどうしてたと思  
う？簡単よ、みんな腐った水を  
飲んだのよ。信じられる？昔の  
船乗りなんてみんないかれてた  
のね。アタシそんなの否よ。な  
になに？じゃコンビニでミネ  
買って来い？あんたこの顔で外  
出たら死んじゃうわよ。私じゃ  
ないわよ、見た人がね。ゲラゲ  
ラゲラ。とにかく急いで頂戴。  
今日は母の日でしょ。ママに奉  
仕しなきゃ。なになに、チーマ  
マだけど母じゃない？しかもお

前は男だ？やーねえオカマって  
言つてよ。ゲラゲラゲラ”

**お**

つともう高田馬場か。 ■

5



## 妄想の地平線

5月のおはなし

文 ハヤシアキオ 絵 凹工房

本書の無断複写・複製・転載を禁  
じます。

© HAYASI AKIO & BOKOKOUBOU